

スケボーパークとふるさと納税

昨年12月のさきがけ新聞に、「スケボーパークの整備資金にクラウドファンディング（クラファン）型ふるさと納税を活用する」とこの記事が掲載されました。そこで、まずは市がスケートボードパークを整備することにした背景をお話したいと思います。

■スケボーパーク整備の背景

市内にはスケボーを愛好する人たちが少なからずいます。日頃、彼らは手作りで障害物等を準備してスケボーを楽しんでいます。私も時々その姿を見て「楽しそうだな」と感じていました。

ところが、「楽しそう」だけでは済まないことがあると後に知りました。スケボーの摩擦音に住民を悩ませていたのです。スケボーが出す音を聞いたことがある人はわかると思いますが、ガガガーという摩擦音は決して心地いいものではありません。それは、環境権を脅かす騒音になりうるものです。実際、市に対して事態の改善を求める要望や、「寝られない」といった直接的な訴えが寄せられていました。

この手の問題は大変難しく、悩ましい問題の一つです。なぜなら、確かに行政は市民の暮らしを守るうえで、トラブルの原因を取り除く役割と権限があるわけですが、他方で行政が私人間の紛争に介入するのは望ましくないとしたことに加え、誰しもが納得できる解決策がなかなか見つからないのが一般的だからです。最近、県外他市において、地元住民が

子どもたちの遊び声を騒音と訴えたことで、遊び場としての公園が廃止されることになったとの報道がありました。伝えられた内容を聞いただけではありませんが、この顛末では誰も幸せになっていないのではないかとこの疑問を持ってしまいました。まさにこれと同じ疑問がこのスケボーの件を聞いたときに思い浮かんだのです。

■クラファン型ふるさと納税を活用

今回のスケボーの件について、私は代替場所を準備することで事態を収められればと考えました。とは言え、お金のかかることです。予算を含めた計画の検討など完成までに3年はかかります。ところが、にかほ市にとって幸運な追い風が吹いてくれました。それは東京オリンピックでの日本スケボー勢の大活躍です。結果を見た政府がスケボーの普及を後押しする姿勢を示してくれたおかげで、市の計画がトントン拍子に進んだのです。

ただ、迅速であるがゆえに最初から予算を大きくとることができませんでした。まずは助成上限の枠内で整備をしていこうということになりました。同時に次年度以降の資金確保の手段の検討を行い、その結果採用されたのがクラファン型ふるさと納税だったのです。

報道のように、クラファン型ふるさと納税による寄付額は目標額をはるかに超えるものとなりました。最終的に目標額の約8倍、1億6千万円超の寄付をいただくことができました。今後、返礼品代

や諸経費を除く約半分を使ってパーク完成に向けて取り組んでいくことになりました。ご寄付いただいた方々に改めて感謝申し上げます。

■気づかされたこと

実は、今回のスケボーパーク整備事業の前に、小砂川漁港の浚渫事業にもこのクラファン型ふるさと納税を活用していました。そこでも目標額を大幅に超える約3千8百万円の寄付をいただいたという実績がありました。

そもそもふるさと納税とは、寄付者が応援したい自治体に寄付をするという仕組みで、その使途は寄付した自治体にほぼ委ねられています。一方のクラファン型ふるさと納税は、自治体が事業ごとに細かく使途を明確にしながら寄付をお願いすることから、寄付者の意思を反映しやすいものとなっています。

つまり、クラファン型ふるさと納税は、寄付者のふるさとを応援したいという気持ち、寄付したお金を有効に活用してもらいたいという思いを反映しやすいものとなっているのです。このように人々の愛郷心との適合性を測るバロメーター、それがクラファン型ふるさと納税なのだと思います。



にかほ市長
市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

